

育てよう和の心 ―いかるが楽（がく）の推進―

～太子に学びふるさとを知る～

斑鳩町教育委員会（奈良県）

1. はじめに

- ◇「ちはやぶる神代も聞かず竜田川 からくれなゐに水くくるとは」（在原業平・古今和歌集）
- ◇「嵐吹く三室の山のもみぢ葉は 竜田の川の錦なりけり」（能因法師・後拾遺和歌集）
- ◇「家があれば 妹が手まかむ 草枕 旅に臥せる この旅人あはれ」（聖徳太子・万葉集）

斑鳩町は、万葉の昔より多くの文人墨客に歌い詠まれた、多彩で奥深い文化と歴史が織りなすまちである。日本で初めて世界遺産に登録された「法隆寺地域の仏教建造物」をはじめ、昭和60年に発見され、石棺や見事な馬具が注目された「藤ノ木古墳」、そして、ユネスコ無形文化遺産に登録されている「能」（金剛流の発祥地）等、古代から人々によって脈々と受け継がれてきた数々の文化遺産を有している。

2. 教育目標：育てよう和の心（教育理念）

- (1) 和の精神をもとに、人を思いやる心、いたわる心、感謝する気持ちを育み、善悪を判断する力をつけることができる教育をすすめます。
- (2) 生涯にわたって、自ら学び、自ら健全な心身を育むことができる生涯学習・生涯スポーツをすすめます。
- (3) 歴史的・文化的遺産の保全や継承に努め、住民が地域に誇りと愛着を持つことができるまちづくりをすすめます。

3. 教育委員会・学校での取組

斑鳩町では、恵まれた歴史と文化を継承し、自らの故郷に誇りをもち、その良さを自信をもって発信していく、心身ともに健やかでたくましい「斑鳩っ子」を育てる教育を行っている。

平成17年度から、斑鳩町立3小学校・2中学校を対象に「小中連携教育」を展開しており、令和3年4月に法隆寺で行われた「聖徳太子1400年御遠忌」を期に、「いかるが楽（がく）」を立ち上げ、令和4年4月から、町立小・中学校で9か年をかけて、聖徳太子の教えや斑鳩の魅力を探求する郷土（ふるさと）学習を教育課程に位置付けて実施している。

■いかるが楽（がく）のねらい

児童生徒が、ふるさとの自然や人、伝統や歴史・文化に触れ、興味・関心を抱き、好奇心をもって、生き生きと主体的に「学び」、「調べ」、「理解」し、これまで学んだ知識や経験も取り入れながら、斑鳩の伝統や歴史・文化を継承・発展させていこうとする意欲と態度を育てる。

■育てたい資質や能力

(1) 先人たちによって生まれ、守られてきた伝統や文化に立脚した広い視野と深い認識をもち、理想を実現しようとする高い志や意欲をもって、主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができる。

(2) 対話や議論を通じて、自分の考えを根拠とともに伝えるときも、他者の考えを理解し、自分の考えを広げ深めたり、集団としての考えを発展させたり、他者への思いやりをもって多様な人々と協働したりしていくことができる。

(3) 変化の激しい社会の中でも、よりよい人生や社会の在り方を考え、試行錯誤しながら課題を発見・解決し、新たな価値観を創造していくとともに、新たな課題の発見・解決につなげていくことができる。

■主な取組

①小中連携教育の推進

小中連携教育として、斑鳩部・英語部・交流部を設けている。

斑鳩部では、「斑鳩ふるさとかるた」を制作し、総合的な学習の時間や郷土学習等に活用している。また、「いかるが楽（がく）」のあり方について連絡調整・検討を行っている。

交流部では、小学生の中学校一日体験入学や、中学生の小学校訪問を実施し、有機的な連携により中1ギャップを生まない小学校から中学校の円滑な移行の実現を図っている。

英会話部では、小学校の英語教育の先行的な実施など、児童生徒が英会話を楽しみながら、言語や文化に触れながら体験的に学ぶ取組を展開している。

②子ども議会

「私たちが思い描く将来の斑鳩町」をテーマとして、一日議員として議会で意見や希望を発表することにより、郷土に対する愛着を深めるとともに、行政や議会に関心を持つ機会づくりをねらいとした体験学習の場として、また、主権者教育の場として実施している

③郷土（ふるさと）学習

斑鳩町立小学校では、「能楽」や「茶道」、「和太鼓」を教育課程に位置づけて実施するとともに、中学校では、外国人留学生を対象に「法隆寺英語案内」を実施している。



斑鳩ふるさとかるた



こども議会



茶道（斑鳩西小学校）

4. おわりに

児童・生徒が自ら主体的に「学び」、「調べ」、「理解」していくきっかけとして、世界遺産学習は非常に有効であると考えている。

斑鳩町では「いかるが楽（がく）」を通して、斑鳩町の恵まれた歴史と文化を活かし、「能楽」や「茶道」、「和太鼓」などの特色ある学習を実践している。これからもこの取組を継続するとともに、児童・生徒が自ら主体的に「学び」、「調べ」、「理解」できる環境づくりに努めていきたい。